



名誉市民証を贈呈された
村本さん



38年ぶりの名誉市民

村本義雄さんへ名誉市民証贈呈

7月1日、LAKUNA はくいで羽咋市名誉市民証贈呈式が執り行われ、今年 101 歳を迎えた村本義雄さんに名誉市民証が贈られました。

村本さんは、72 年の長きにわたりトキの保護と生態研究に取り組み、日本と中国のトキ交流の架け橋として多大な貢献をしました。また、トキが再び暮らせる環境づくりの重要性を訴え、地域ぐるみの取り組みを支え、トキと共生する地域づくりへの機運醸成に大きな役割を果たしました。

式典において、村本さんは「トキが何を願っているのか、トキの声を聞いてほしい」と、長年の保護活動に基づいた思いを力強く述べました。

ふじおか Culture

～藤岡の文化を探る～

【問い合わせ 文化財保護課 (☎235997)】

No.117

現在、県内では戦国時代末期から続く、気楽流柔術という古武道が伝承されています。江戸時代に活躍した伝承者の 1 人に本市出身の飯塚臥龍齋興義がいます。

臥龍齋は安永 9 (1780) 年、現在の下大塚に生まれました。14 歳の頃に、江戸浅草で道場を開いていた叔父から教えを受けて、神陰・戸田・足田・三化無敵の柔・剣術合わせて 4 流派を学び、18 歳になる頃には免許皆伝を得ました。武道などでは、全ての技術を習得したことを免許皆伝といい、厳しい修行を乗り越えてきた実力者であったことがうかがえます。

臥龍齋が伝えた気楽流は、元は戸田流と呼ばれ、加賀の前田利家に仕えた戸田越後守が創始者とされています。相手を素手で取り押さえる捕り手術を主体とした、棒・鎖鎌・鉄扇・十手・契木・小太刀などの武器も扱う総合的実践武術です。

いづかがりゅうさいおきよし
飯塚臥龍齋興義
～気楽流柔術武者～

免許皆伝となった寛政 10 (1798) 年、臥龍齋は武者修行をするため諸国を旅して回りました。旅先では他流試合を行い、時には打ち負かした相手方から教を請われることもあったようです。滞在先の複数の藩で師範を務めたこともあり、ついには門人の数が全国で 1 万人を超えたといわれています。

臥龍齋は天保 11 (1840) 年に死去し下大塚の源性寺に葬られました。境内には顕彰碑が残されています。



源性寺に伝わる鎖鎌

教えて！消費生活

テレビショッピングに注意！

Q 先日、テレビショッピングで紹介されていたマッサージ機を電話で注文した。早速使ってみたが自分には合わないと思い、事業者に「返品したい」と電話した。すると「テレビショッピング内の返品特約に通電した商品の返品はできないと記載していた」と返品に応じてもらえなかった。返品できないのか。

A テレビショッピングは通信販売にあたるため、クーリング・オフの対象外となります。テレビショッピング内で適正に返品特約が示されている場合は、その特約に基づきます。返品は、未開封に限られていたり、期限が設けられている場合があるため注意が必要です。

今回の場合は、テレビショッピング内の返品特約で通電した商品は返品できないと記載されていたため、マッサージ機は返品できません。

テレビショッピングで注文する際には、画面に表示されている返品特約の内容を確認しましょう。また、商品の使用感やサイズなども電話口で確認をしましょう。

消費生活の相談は市消費生活センター ☎FAX 兼用 201133 (来庁相談要予約) 相談時間 平日午前 9 時～午後 4 時

ごみを減らす・分ける・生かす

— 安心して生活できる環境を次世代へ —



第 5 回 飲料容器の分別

ジュースやアルコールなどの飲料容器(ペットボトル・缶類・瓶など)は、大切な資源としてリサイクルされています。夏になり飲み終わった飲料容器のごみが多くなります。飲料容器は適切に分別し、リサイクルすることで持続可能な社会の実現につながります。大切な資源の分別に協力してください。

◆飲料容器の出し方

	ペットボトル	缶類	無色・白色瓶	色付き瓶
出し方	ラベルとキャップを取って水ですすぎつぶさずに緑色のかごへ	水ですすぎつぶさずに青色のかごへ	水ですすぎで白色のかごへ	水ですすぎでオレンジ色のかごへ
かごの種類				
収集日	ごみ出しカレンダーの緑色の日	ごみ出しカレンダーの青色の日	ごみ出しカレンダーの青色の日	ごみ出しカレンダーの青色の日

ペットボトルや缶は、つぶしてしまうと清掃センターで圧縮する際にまとまりづらくなってしまいます。つぶさずにそのままかごに出すようにしてください。

＜知ってもらいたい「ごみ」のこと＞

多くのペットボトルは、衣類やプラスチック製品に再商品化されます。その後は、再利用されることなくごみとして焼却されます。市ではサントリーと協定を結び、使用済ペットボトルを新品に再生し、恒久的に資源として循環させる「B to B」事業を推進しています。

問い合わせ 清掃センター (☎238305)